

羅 針 盤			方 策	第1回 点検・評価			第2回 点検・評価			
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	改善策	自己評価	外部アンケート等	改善策	
I 特色ある学校づくりを推進する。	1 学力向上を根幹として、各学科(普通科、スポーツ科、芸術科)の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別授業(数学・英語)に85%以上の生徒が満足している。</li> <li>専門教科の授業に85%以上の生徒が満足している。</li> <li>専門学科の特色ある取組を85%の生徒・保護者が評価している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の進路希望に対応した必修科目及び選択科目を用意し、適切な科目選択を指導する。</li> <li>部活動運動型の授業・少人数指導を効果的に実施する。</li> <li>「羅針盤」の評価項目・具体的数値項目を全職員に周知する。</li> <li>職員と生徒で共に考えてより良い規律ある学校生活が送れるようにする。特に時間に対する指導を重視する。</li> <li>法規の遵守やマナーの向上を交通委員会等を通じて呼びかけ、交通安全に努める。</li> <li>事前の準備段階から生徒会役員等と企画立案をして、生徒が主役となるような行事運営を進めていく。</li> <li>部活動紹介等を通じた勧誘と活動環境整備により、加入率の向上と充実した活動となるように努める。</li> <li>校長による授業観察、教員相互の授業観察・授業研究を通じて授業改善を図る。</li> <li>授業の予習復習を徹底させ、定期的にノート点検等を実施する。課外や課題を通して基礎学力の充実、応用力の育成を図る。</li> <li>第1、2回の希望受験、第3回の全員受験に向け、生徒の意識を高めるとともに、基礎的な英語力だけでなく応用力も育成する。</li> <li>原則毎日実施の「朝の読書」、LHR読書会や推薦図書リストの発行などの取組により読書意欲を喚起する。</li> <li>生徒の能力・適性をよく把握し個々にあった指導を適切に行うとともに進路実現のための情報提供を充実させる。</li> <li>様々な進路行事や進路学習を通して生徒の進路に対する意識を高め、将来の目標を明確にさせていく。</li> <li>家庭への連絡を徹底し健康診断の結果に基づき治療を促す。</li> <li>各学年との連携・連絡を密にし、情報を共有する。早期の対応に努める。</li> <li>定期的な点検による安全確認、公仕と連携しての校内美化を実施する。</li> <li>P T A だより等を利用してP T A 活動と学校の活動を保護者に発信する。</li> <li>公開授業・学級懇談会の資料や内容を工夫し充実させる。</li> <li>発信できる内容・記事を積極的に収集する。</li> <li>定期的に服務規律だよりを配布し、啓発に努める。また、I C T 活用やカウンセリングに関する職員研修を実施する。</li> </ul>	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>選択科目説明会の後、教務係による選択アドバイス週間をもうけ、より進路希望に沿った科目選択ができるよう支援する。</li> <li>専門科目の授業をより充実させる。</li> </ul>				
	2 全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各職員が「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。</li> </ul>								
	II 生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	3 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時指導を中心に、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒の状況がおおむね良好である。特に遅刻指導該当生徒が年間45名以下である。</li> </ul>		A	授業の開始等が時間通りにできるよう今後も指導していく。			
		4 交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。		<ul style="list-style-type: none"> <li>自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や大事故をゼロにする。</li> </ul>		B	交通安全だよりなどを利用して交通安全の意識の高揚を図る。			
		5 生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>文化祭や球技大会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。</li> </ul>		A	生徒が主役となる行事運営を行うという現在の方策を継続し、一層の徹底を図る。			
		6 部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。		<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。</li> </ul>		A	加入率は目標をクリアしているが、現在の方策を継続し、一層の徹底を図る。			
III 生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	7 双方向の授業への取組を進める。また生徒一人一人に対応した指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。</li> </ul>		C	授業アンケートの結果を活用して、より一層の授業改善に努める。					
	8 授業時間を確保する。また授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1・2年生で80分以上である。</li> <li>実用英語技能検定の合格者が、2級10名、準2級60名以上である。</li> </ul>		D	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末課題の充実、授業中の小テストの実施、予習復習の状況を木目細かくチェックする。授業がわからない生徒に対する補習を実施する。</li> <li>第1、2回の受験者が少ない。担任からも積極的な受験を呼びかける。第3回の全員受験に向けて、基礎基本を繰り返し確認し定着を図る。</li> </ul>					
	9 継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。</li> </ul>		B	「朝の読書」を通じて全教職員が様々な立場から本を紹介する「ブックトーク」を推進する。					
IV 生徒に進路目標を達成させる。	10 自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>二者面談等により、職業や適性、進路実現のための課題を生徒自身に考えさせ、意識できた生徒が1・2年生で70%以上である。</li> </ul>		B	進路部による進路相談の機会を増やし担任をサポートする。もし等の資料も活用し適切な進路情報の充実を図る。					
	11 進路指導に関する情報を共有し3年間を見通した体系的な指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路を考えるのに進路関係の行事が大いに役立っていると思う生徒が80%以上である。</li> </ul>		B	進路行事の目的や方法を明確にし、内容を充実させるとともに適切な時期に見極めるようにする。					
V 生徒の心身の健康と安全に留意する。	12 生徒が自らの健康の保持増進に努めるなど自己管理に向けた指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱中症やインフルエンザ等の予防の情報提供を適切に行う。また、生徒の健康診断に基づく受診率が30%以上である。</li> </ul>		C	家庭への連絡方法を考えてみる必要がある。郵送することなどを含めて、具体策を検討する。					
	13 心身の健康問題を抱える生徒の早期発見と適切な指導や対応に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の悩み等の相談を受け入れやすい体制づくりを進め、十分なサポートができていく。</li> </ul>		A	学年会からの情報収集をより確実にする。					
	14 学びの場としての教室等の環境の整備・美化に努める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の安全点検や美化点検を月に1回実施し、良好である。</li> </ul>		B	校庭の整備を充実する。					
VI 開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	15 保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A 総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が50%以上、後者が、80%以上である。</li> </ul>		B	P T A 総会の参加率を上げるため当日の内容を授業公開、学級懇談会、総会に絞り2時間で終了とする。					
	16 Webページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校のWebページを週1回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80%以上の参加者が答えている。</li> </ul>		B	学校のWebページを見ている保護者は半数に達していない。情報の発信方法を工夫する。					
	17 校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>服務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。授業でのI C T 活用やカウンセリングに関する職員研修を実施する。</li> </ul>		B	服務規律だよりは現在第5号まで発行した。これを継続する。さらに、教科別の授業研修を行い授業力の向上を図る。					

